緑峰 NEWS 2022年度 No. 4

夢の舞台俳優へ

３月５日（土）、岩手日報にて本校の３年生久慈さくらさんのインタビュー記事が掲載されました。久慈さくらさんは「遠野物語ファンタジー」に魅せられ本校へ進学し、来年から劇団わらび座で舞台俳優の道に進みます。

夢の舞台俳優へ一歩

遠野市民劇に魅せられて――

遠野緑峰高の久慈さん

わらび座(秋田)養成所入所

恩返しのがい旋胸に挑戦

プロの舞台俳優として遠野に戻る目標を秘める久慈さくらさん

舞台俳優として、恩返しの凱旋を―。遠野市松崎町の久慈さくらさん(18)＝遠野緑峰高3年＝は4月、秋田県仙北市拠点の劇団わらび座養成所に入所する。市民劇の草分けと称される遠野物語ファンタジーに魅せられ、約10年間過ごした盛岡を離れ遠野の高校へ進学。キャストとして稽古に励んだ3年間で憧れを明確な目標に定めた。聴衆に笑顔と感動を届けるプロとして遠野に戻る日を思い描き、人生の新たなステージへ進む。

2日に高校の卒業式を終えた久慈さんは、希望や寂しさが入り交じった複雑な感情を抱いた。養成所試験の練習に付き合ってくれた友人と制服で納まる写真もこの日が最後。「3年間で多くの仲間に恵まれた。離れるのが悲しくて…」。込み上げるものをこらえきれなかった。

「わらび座」と「遠野」が、人生に大きな影響を与えた。年長児から中学校卒業まで盛岡市で過ごした久慈さんは、中学2年時に学校の宿泊研修でわらび座の公演を見て「歌と演技、全てが別世界」と衝撃を受けた。一瞬で心引かれ、舞台俳優が将来の夢になった。

母が遠野市出身で、中学3年時に初めてファンタジーを見た。プロ顔負けの舞台を目の当たりにし「ここで自分も演じたい」と決意。一時親元を離れ同校に入学し、翌年からキャストで参加した。

基礎体力を付けるため1日1万歩を目標に歩き、自宅では腹筋を鍛えた。「なまり」を習得するため、指導者の声を録音して発声練習することもあった。多忙な日々も「家族や仲間の応援で乗り越えられた」と笑顔で振り返る。

小さな自信を重ね、昨年10月の養成所試験に見事合格。勝負衣装は母とその同僚が仕立ててくれた。3年間の集大成だった2月のファンタジー公演が中止になったことは心残りだが、今は「将来、このまちに戻る理由が増えた」と前を向く。

4月上旬に養成所の寮に入り、プロを目指して2年間鍛錬を積む。「狭く厳しい扉の先で、成長した自分と出会いたい」。民話の古里から、光をつかむ挑戦が始まる。

（小野寺隼矢）

岩手日報 2022年(令和４年)3月５日付　　著作物使用許諾取得済み